

南参通第壹号

常軍作戦計画別紙ノ通り相定候付及
通牒候也

明治廿八年九月廿日

南進軍司令官子爵高島勲之助

常備艦隊司令長官男爵有地品之允殿



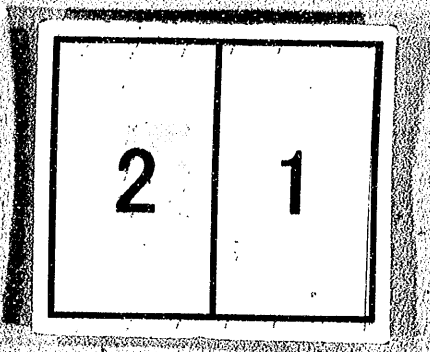


作戰計畫

明治廿八年九月二十日於台北府

近衛師團ヲ嘉義附近ニ進メ全時ニ混成旅団ヲ
 布袋嘴港附近ニ上陸セシメ又之ヲ略ス全時ニ
 二師團ノ首力ヲシテ艦隊ト協力ヲ妨害附近ニ
 陸海兩軍ヲ以テ鳳山及ヒ打狗ヲ攻略セシム次ニ
 第三師團ノ首力ハ近衛師團混成旅団ニ
 日ヲ刻シテ三面台南ヲ包攻シ塔間艦隊
 安平港ヲ砲撃スルコト

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

外通所經乃界部脈凡五艘

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

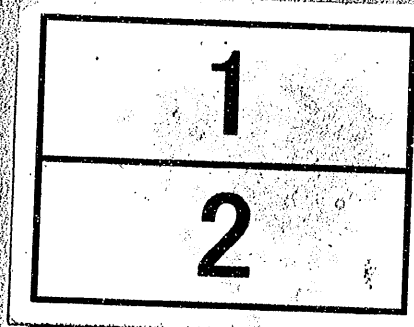
戰

計

畫風

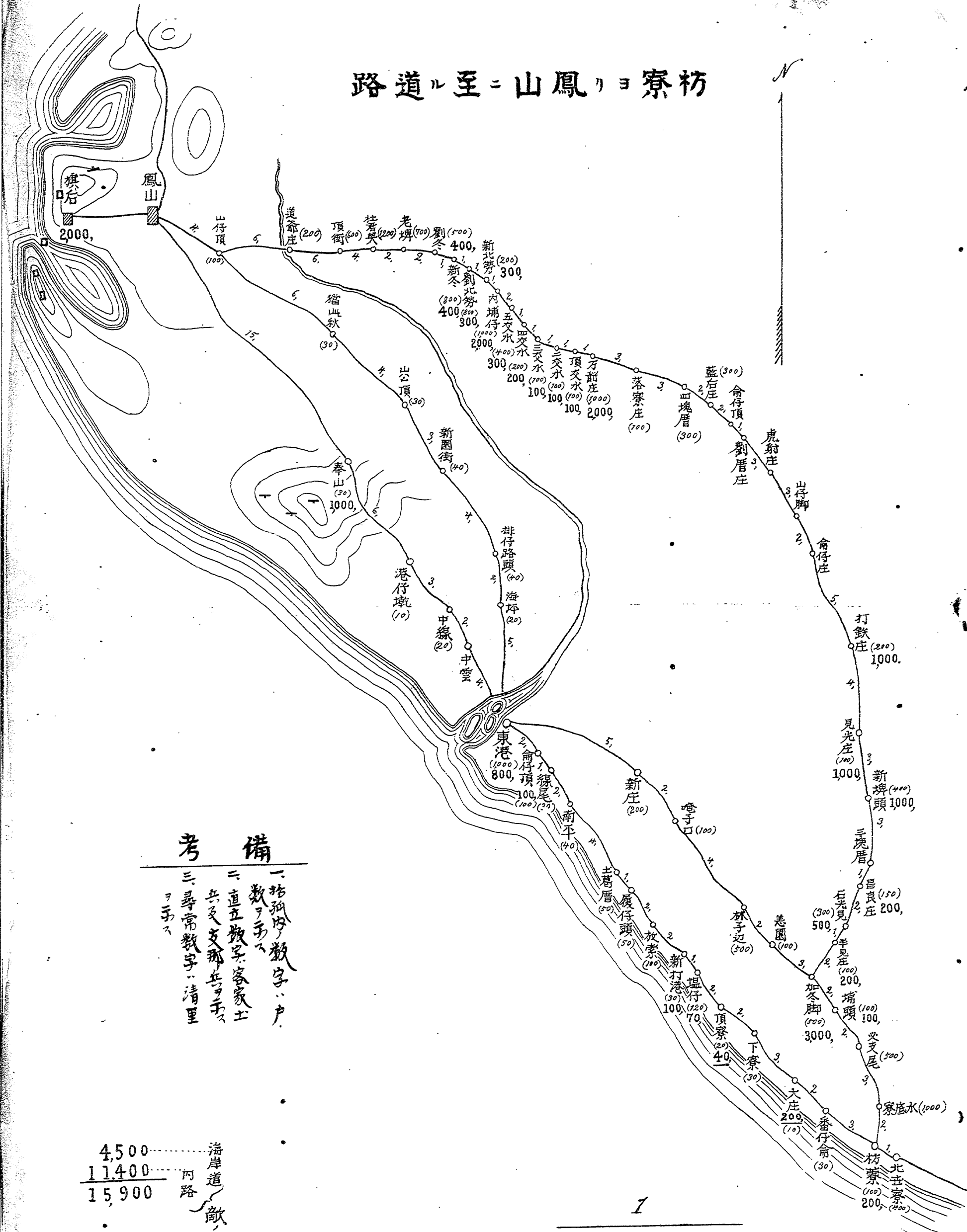
[illegible]

分割撮影ターゲット

分割した	部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め	
上記のとおり分割撮影した事を証明する。		



枋寮至鳳山道路



備考

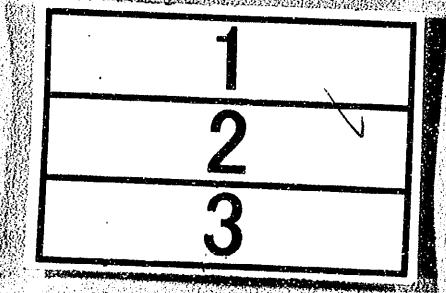
一、括弧内ノ数字ハ、戸
数ヲ示ス
二、直五散兵客家人
兵及支那兵ヲ示
三、尋常数字ハ、清里
ヲ示ス

海岸道 敵兵力
内路
4,500
11,400
15,900

1
40,000

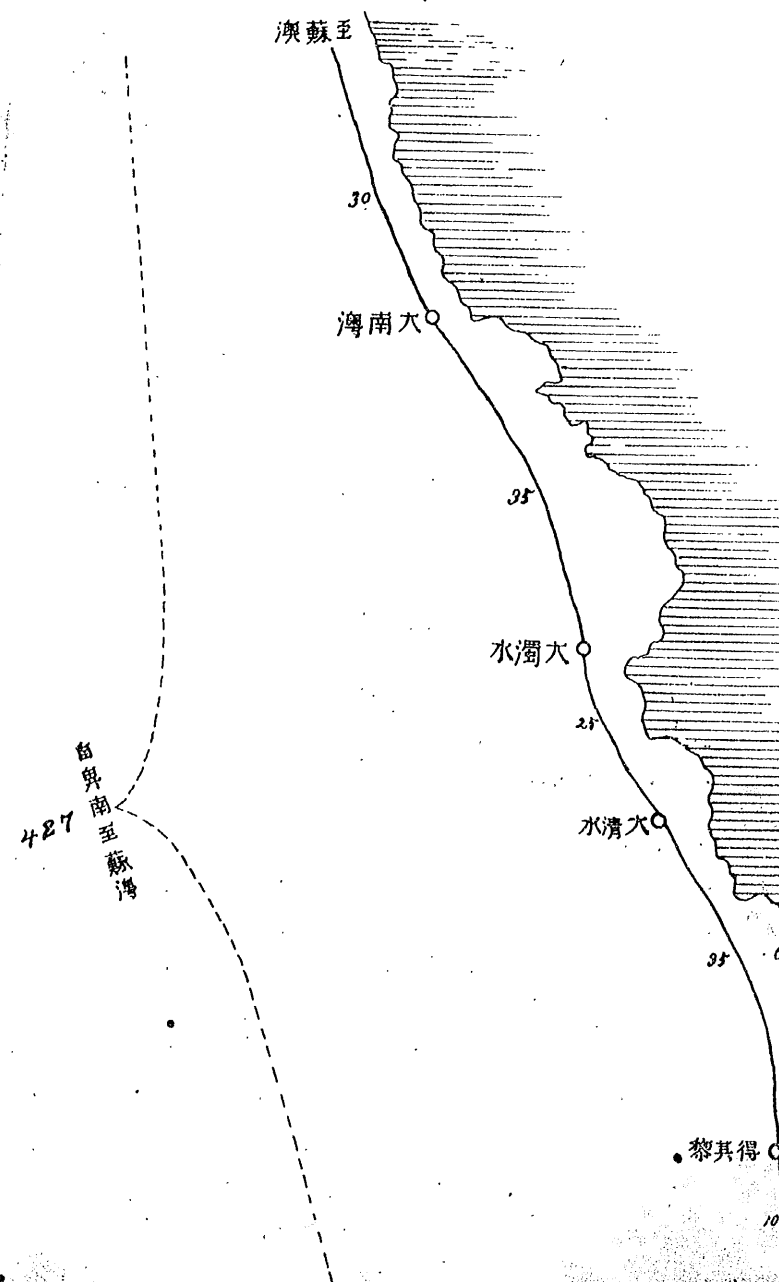
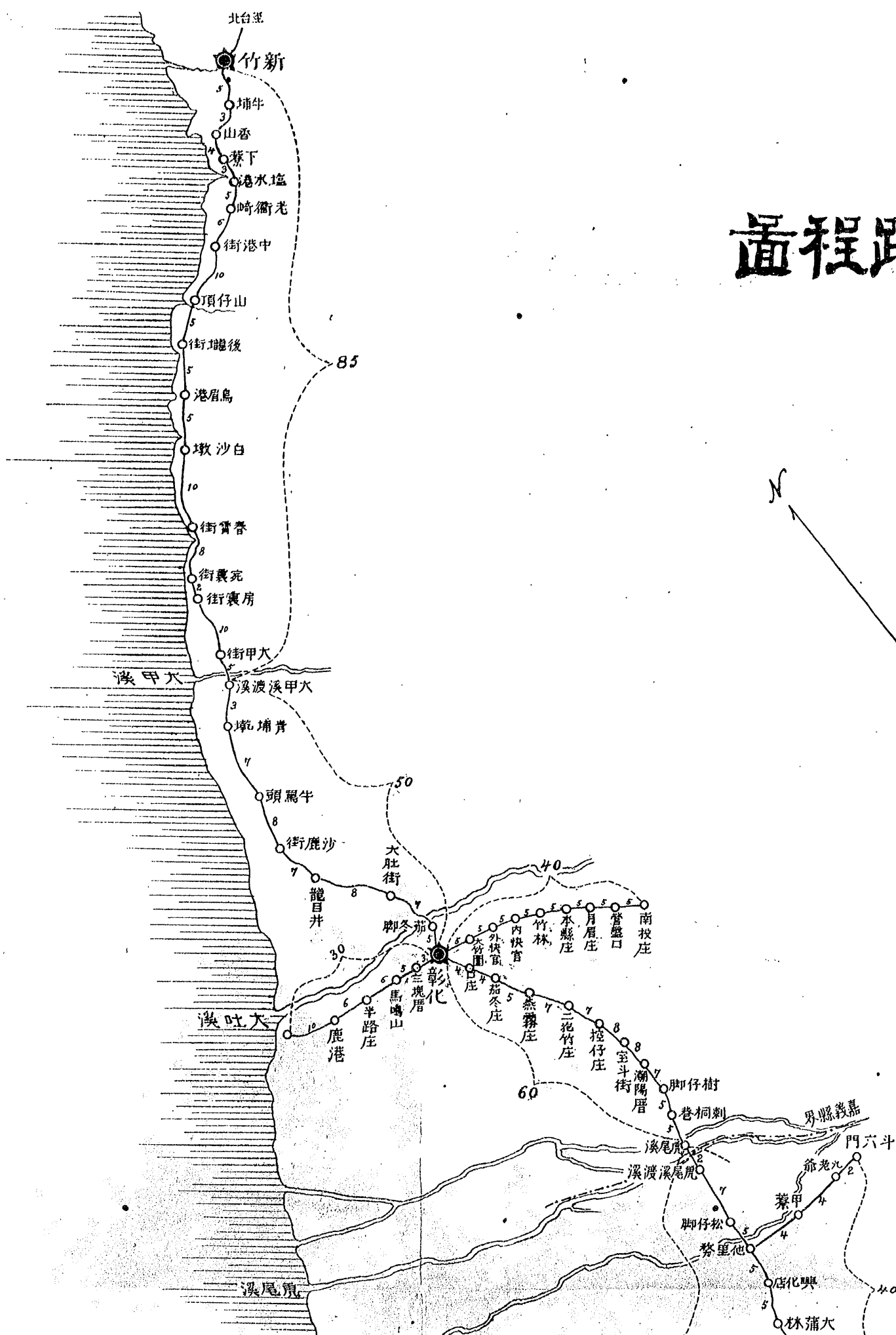
0 1 2 3 4 5 10

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1055
1056
1057

自新台至恒春附近路程圖







行和日四十月九年八十二治明
郵圖臺南府郵局南台

司令官印

南進軍司令部職負表別紙之通相定セラレ
依テ職負ハ此際辞令ヲ用ヒス服務スル儀
ト御業知アリタシ

明治二十八年九月吉日 参謀長男爵大島久直

南進軍司令部付陸軍歩兵少佐花坂円

南進軍司令部職員表													
區分等	司令官	幕僚		管理部		砲兵部	工兵部	監督部	監督部		軍部	電信部	郵便部
		参謀部	副官部	憲兵	衛兵				金櫃部	糧餉部			
長	中將高嶋勲之助	長 少將大島久直				長 少將村井長寛					長 中將藤田若坂惟寛		
副長		副長 砲兵佐佐木清	砲兵佐平岩親徳				長 佐佐木友三	長 佐佐木清				長 佐佐木友三	
士官同相當官		同 大井親太郎	同 高島友武	同 竹下平作	同 高島友武	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三
准士官及下士	同相當官	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三	同 佐佐木友三
兵卒	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
軍夫	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
合計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

南進軍司令部編成表

[illegible]

南進軍編組

一 近衛師團

師司令部
步兵第一旅團
騎兵大隊
野戰砲兵聯隊(山砲)
工兵大隊(臨時中隊及大小架橋縱列)
獨立野戰電信隊(本部及)
機關砲隊六隊
彈藥大隊
輜重兵大隊
衛生隊
野戰病院二個

二 第二師團

師司令部
步兵第三旅團
同 第四旅團
騎兵第二大隊
野戰砲兵第二聯隊(山砲)
工兵第二大隊及大小架橋縱列
彈藥大隊
輜重兵第二大隊
衛生隊
野戰病院二個
第二野戰電信隊

三

憲兵隊若干
獨立野戰電信隊本部
砲兵中隊同砲隊

臺灣兵站諸部隊

兵站監部

野戰砲廠	野戰工兵廠	砲廠監視隊	輜重監視隊	衛生豫備負	衛生豫備廠	患者輸送部	兵站糧食縱列	兵站電信部	兵站司令部
(臨時)	(臨時)	(臨時)	(臨時)	(臨時)	(臨時)	(臨時)	(臨時)	(臨時)	(臨時)
第二師專一	第二師專一	第二師專一	第二師專一	第二師專一	第二師專一	第二師專一	第二師專一		
三	三	三	七	三	三	三	五	一	若



大東参通分

一南参命第一号

一南参命第二号

一南進軍々隊區分

一南参命第四号

一南参命第六号

一南参命第七号

右命令候御通報之及ブ

明治十八年九月廿日

南進軍司令官子爵高島綱助

常備艦隊司令官有地品之允殿

臺灣總督府

南冬余第一號

近衛師團長第二師團長混成旅團長
台灣兵站監
金令

作戰計畫表別紙通相定

明治三十八年九月五日

作戰計畫

明治廿八年九月十七日於東京府

近衛師団ヲ嘉義附近ニ進メ全時ニ混成旅団ヲ
布袋嶺港附近ニ上陸セシメ又之ヲ曉ノ全時ニ第
二師団ノ主力ヲシテ艦隊ト協力ヲ密着附近ニ上陸
陸海兩軍ヲ以テ鳳山及ヒ打狗ヲ攻略セシメ次ニ
第三師団ノ主力ハ近衛師団混成旅団ヲ
日ヲ刻シテ三面台南ヲ包攻シ塔間艦隊ハ
安平港ヲ砲撃スルコト

南支余芽二群

近衛師主、芽二師主、混成芽四旅主長へ余令九月廿二日於台北

一、敵首力、台南附近、在ラ其一部、鳳山及嘉義附近、余

シアル者、如シ

軍、台南攻撃ノ目的ヲ以テ、如ク前進ス

二、混成芽四旅団、布袋嘴港附近上陸ノ目的ヲ以テ十月二ヨリ

基隆港ニ於テ乗船十月八日マテ澎湖島ニ集合スベシ

乗船、関シラ、基隆運輸通信部長三上晋太郎ト協議スベシ

三、芽二師団、枋寮附近上陸ノ目的ヲ以テ十月八日マテ澎湖

島ニ集合スベシ

四、芽二師主長及混成芽四旅団長、上陸ニ関シテ、備艦隊司令長官有地品之兄ト協議スベシ

近衛師は九月廿九日以後、於テ行進ヲ始メ首カヲ以テ十
月八日ヲ嘉義附近、到着シ全十日ニ一部隊ヲ下營
汎附近、派遣シ大凡十月十日頃より開始スベキ混成第四
旅団ノ上陸ヲ容易ナラシムベシ
大肚溪以南ニ近衛師主ノ背後ニ於テ兵站線路ノ守備
ニ近衛師主之ヲ擔任スル但シ大肚溪以北全線路ノ守備ハ
台灣總督府之ヲ擔任ス
大軍司令郡混成第四旅団ト共ニ澎湖島ニ到リ後チ布
袋嘴港附近ニ上陸ス第四師主長及混成第四旅主長
ハ澎湖島ニ於テ各、其部下諸部隊ノ集合ヲ報告スル

南進軍々隊區分

一 近衛師團 (陸路南進部隊)

長陸軍中將能久親王

步兵第一旅團

步兵第二旅團

騎兵大隊 (二中隊)

野戰砲兵聯隊 (山砲二大隊)

工兵大隊 (臨時真中隊) 及大小架橋縱列

獨立野戰電信隊 (半部欠)

機關砲隊六隊

衛生隊一隊

彈藥大隊 (歩四砲二)

輜重兵大隊(糧食三馬廠)
野戰病院 二個

二、第二師團(枋蓼附近上陸部隊)
長陸軍中將男爵乃木希典

步兵第三旅團

騎兵第二大隊(第一中隊(三隊)欠)

野戰砲兵第二聯隊(砲(第一大隊)欠)

臼砲中隊(九洲知臼砲八門)及砲廠

工兵第二大隊(第二中隊欠)及大小架橋組別

衛生隊(半部欠)

彈藥大隊(步第一第四砲二)

輜重兵第二大隊(糧食二馬廠一)

野戰病院一個
第二野戰電信隊

三混成第四旅專(布袋嘴港附近上陸部隊)
長陸軍少將貞愛親王

步兵第四旅專

騎兵第二大隊第一中隊(二小隊)

野戰砲兵第二聯隊第一大隊(山砲)

工兵第二大隊第二中隊

第二師專衛生隊本部

同步兵第二第三彈藥總列

同山砲彈藥一總列

同糧食一總列

野戦

同野戦病院一個

四軍司令部直轄部隊
独立野戦電信隊半部

秘

南支余第四號

台灣兵站監へ余令 九月廿二日於台北有

一軍は台南附近に在り、敵の有力な攻撃を以て近衛
師団、第三師団、混成第四旅団長に別紙如く余令せり
二貴官は第三師団及び混成第四旅団を爲す要する兵站
諸部隊の派遣に兵站業務に従事せしむべし
但し派遣すべき兵站諸部隊は預め報告を要す
東航に關し、基隆運輸通信部長三上晋太郎ト
協議ス

三軍司令部、混成第四旅団と共に澎湖島に到着後、
布袋嘴附近に上陸ス

1072

南參命第六號

一 兵站監比志嶋義輝、命令、批准、
輕便鐵道班、自今貴官、今下、屬、貴官、
他、兵站諸部隊、其、之、之、基隆港、於、城、
二 格載、開、之、之、基隆運輸通信部長、主、者、
三 該鐵道敷設、開、之、之、軍工兵部長、三、村、友、
茲、之、之、直接、該班長、指示、之、之、

秘

南參命第七号

陸軍工兵中尉小須田電太（明治三十八年九月一日
於台北）命令

一、軍ハ基隆攻撃ノ目的ヲ以テ南進ス

二、貴官ノ統率セル獨立野戦電信隊半部ハ基隆
港ニ於テ乗船混成第四旅團ト共ニ澎湖島ニ
至リ命ヲ待ツ可シ

三、乗船ニ関シテハ基隆運輸通信部長三上晋
太郎ト相談ス可シ

秘

南北兩專隊交通規定

一南北兩專隊交通ノ爲メ通信船四艘ヲ使用
ス其内布袋嶺東港(枋寮)及基隆各一艘
ヲ常置シ其餘兩艘以テ布袋嶺東港間ノ定期
航海(日々四回)ニ充ツ
各通信船ニ一艦隊ヨリ士官一名下士半若
干名ヲ乗込セシム
二北部ヨリ第二師團ヘ送ルベキ電信及筆記
命令通報等ハ布袋嶺ノ運輸通信支部ニ又
南部ヨリ軍ニ送ルベキ電信及筆記報告通
報等ハ東港(枋寮)或ハ打狗運輸通信支部
ニ送付ス

運輸通信支部長、其書類中表書、特別通
 信配下記入シテモ、ハ直ニ常道通信船
 ヲ以テシ、其他ノモノハ定期船ヲ以テシ
 布袋嘴或東港枋寮或打狗ノ電信通信
 所又ハ運輸通信支部長ニ送達セシム所
 ハ宛名地ニ向ヒ迅速ニ發送ス
 運輸通信部長ハ必要ナル場合ニ在テハ空
 虚ナル運送船ヲ特別通信船ニ使用ス
 軍司令部及第二師司令部ハ時々其所在
 地ヲ布袋嘴東港打狗等ノ電信通信所及
 運輸通信支部長ニ通致ス
 三、台南攻撃ノ近日、於テハ南北兩軍隊及艦隊
 ハ諸種ノ手段ヲ以テ陸海兩道ヨリ交通連
 絡ヲ敏活ナラシム

南參命第土號

第二師專長、混成第四旅專長、訓令十月八日

一、敵兵力及其所在地ハ約別表ノ如ク又々東港及ヒ布袋嘴附近ハ若干ノ敵

二、通街師專ハ去ル五日前街ヲ以テ約七八百ノ敵兵ヲ樹仔脚附近ニ撃破シ其ハ隊

ハ六日永靖街附近ヲ出發シテ南參命第ニ號命令指定ノ期ニ於テ指定

三、第二師專及ヒ混成第四旅專ハ海軍ト協力敵前上陸ノ覺悟ヲ以テ各々南參命第

ニ號命令指定ノ地附近ニ上陸スル而シテ其航海及ヒ上陸ニ関シ兩司令部ハ直接艦

隊ト協議スルヲ要ス
其澎湖島出發ノ時日ハ本月九日以後天候トシ更ニ之ヲ指定セントス但其信号ハ艦隊

四、第二師專ハ上陸後艦隊ト協力鳳山及ヒ打狗ヲ占領シ加禮頭三塊厝以南ニ在テ北

進ノ準備ヲ為シタルベシ
南參命第ハ八號命令ヲ以テ第二師專ニ附屬セシメタル要塞砲兵隊ノ人負ハ約其

半ヲ打狗諸砲台ニ使用シ殘餘ハ安平諸砲台ノ為ニ師專ト共ニ北進セシムルヲ要ス

第二師專ハ上陸後成ル可ク速カニ一枝隊ヲ四十方一圖上小崗山方向ニ差遣シ生蕃地

通スル敵ノ退路ヲ扼シ台南總攻戰ヲ當テハ該枝隊ヲ以テ同圖上塩水埔方向ヨリ此攻

撃ヲ參戰セシムルヲ圖ル可シ
該枝隊ノ兵力、行進路、其塩水埔附近ニ進出シ得ル大凡ソノ日取、及ヒ師專首力

第三師專北進ニ當リ其背後兵站線路ノ守備ハ同師專ニ於テ之ヲ擔任ス
ベシ

五混成第四旅專ハ上陸後急水溪河ノ以北ニテ西螺街茅港尾街ヲ道上及ヒ其
以西諸村ヲ悉布袋嘴港ヲ除ク但レ同所守備隊ハ此限リテ了ラズニ崩營レ台南方
向ヲ捜ヤシ且ツ成ル可ク速カニ近衛師專ト連絡スルコトヲ努メ可シ
旅團ハ近衛師專トノ微敷區域ハ西螺街茅港尾街ヲ道ヲ以テ其限界ト為ス
但レ該街道上ノ諸村落ハ旅專ニ於テ使用スルコトヲ得
近衛師專ノ枝隊既ニ塩水港汎陥近ニ到着シアル場合ニ在ラハ旅專ハ部隊
ヲ以テ之ト交代セシムベシ

澎湖島ニ在リテ旅專ノ步兵ニ中隊中其一中隊ハ同島ニ殘留シ同島守備
要塞砲兵隊長ノ指揮下ニ入ラシム可シ仲ニ中隊乗船ニ関シテハ在仙臺
ヲ險通信部長ニ上晋太郎ト協議ス可シ

旅專背後兵站線路ノ守備ハ旅團ニ於テ之ヲ擔任ス可シ
六軍司令部ハ馬公港東京丸ニ在リ後々布袋嘴港附近ニ上陸セトス

南參命第十三號

混成第四旅團長へ命令

十月八日馬公港
東京九三號

貴官、其旅團ト共ニ上陸スヘキ獨立野戰電信隊半
部(引率官陸軍工兵中尉小須田電太)ノ宿營及給養ニ
関シ之方區處ヲ為スヘシ

南参軍第十三號

陸軍五兵中尉小須田電太へ命令

十月八日馬公港東京九ニ於テ

- 一、貴官ノ引率セル独立野戦電信隊ノ半部ハ混成第四旅團ト共ニ布袋嘴港附近ニ上陸シ其宿営及ヒ給養ニ関シテハ混成第四旅團長ノ處処ヲ受クベシ又上陸ニ関シテハ上陸委員長平尾海軍大佐ト協議スベシ
 - 二、貴官ハ上陸後先ツ布袋嘴港ヨリ塩水港汎ニ向ヒ電信架設ノ準備ヲ為シ彰化ヨリ下茄冬汎ニ延長スル他ノ電信線ト連絡スルヲ勉メベシ
 - 三、貴官ノ宿営地ハ軍司令部上陸後速カニ之ヲ報告スベシ
 - 四、軍司令部ハ馬公港東京九ニアリ後々布袋嘴港附近ニ上陸セントス
- 南参軍第十四號

兵站監へ命令

十月八日馬公港東京九ニ於テ

- 一、貴官ハ其令下ニ在ル諸部隊等ノ上陸ニ関シ布袋嘴港ノ上陸委員長タル平尾海軍大佐並ニ枋繁ノ上陸委員長タル平山海軍大佐ト協議スベシ
- 二、布袋嘴港附近ニ上陸スベキ兵站諸部隊ハ布袋嘴ニ宿営セシムベシ
- 三、貴官ハ上陸後必要ノ區処ヲ為シ是後ハ成シ得ル限り軍司令部所在地ノ附近ニアルベシ
- 四、軍司令部ハ馬公港東京九ニ在リ後々布袋嘴港附近ニ上陸セントス

地名營數營名將校名

官兵
敢死軍

劉揚吳鐘宗簡鄭林簡
步加
馬
滿

世

團練營	組字右營 (左營)	鎮海軍右營(海口)	鎮海前石營(海口)	鎮海前軍左營(海口)	中軍(副營)	先鋒營 雷營(城內)	左翼練營	中字營	中軍先鋒營	中軍後營	正兵營(前鋒)	衛隊先鋒營	七星隊	翔宇左營	永字營	武義營
劉永福	許南斌(管帶)	陳英(中營) 統領	李乃昌(管帶)	朱國志(管帶)	徐維義(統領)	李治安(管帶)	吳世添(管帶)	忠滿(統領)	徐學榮(統領)	楊泗雲(管帶)	陳雞(統領)	葉永輝(管帶)	柯士貴(管帶)	劉中山		

中宇營(後港) 吳光忠(營帶)

陳尚志

福軍方前五宮 肇子 劉成良五品

備所
鳳山、勃嶺、閩、客、公、共、一、萬、五、千、又、雙、林、寺、及、黑、旗、二、千、大、埔、林、二、千、其、他、他、聖、堂、衛、士、共、一、萬、五、千、○、昔、將、劉、永、福、八、千、甲、二、千、○、
旗、後、江、利、所、匪、地、雷、布、設、○、機、房、閩、六、千、其、餘、十、大、線、橋、五、千、其、他、
江、三、鳳、鼎、五、千、○、安、步、近、二、千、一、此、近、銷、此、○、十五

劉永福
 長子
 印成良

目下台南附近ニ在ル敵諸將ノ名		
名	駐在地	名
首將 劉永福	台南	孔憲仁
長子 印成良	旗后	石國珍
楊洪泗	台南	吳光忠
談少宗	同	劉步島
栢正才	同	嘉義
譚發言	同	
王德標	同	

劉永福人相

年齢 六十一歳
 身長 約五尺五寸

瘦セタ方
 額少シク廣ク皺アリ

鼻少シク高キ方
鬚皆在リ而シテ白シ
口小ニシテ尖
眉薄シ
顴尖ル
血色蒼
目三丁厚ナシ
風采稍々野卑ナル方

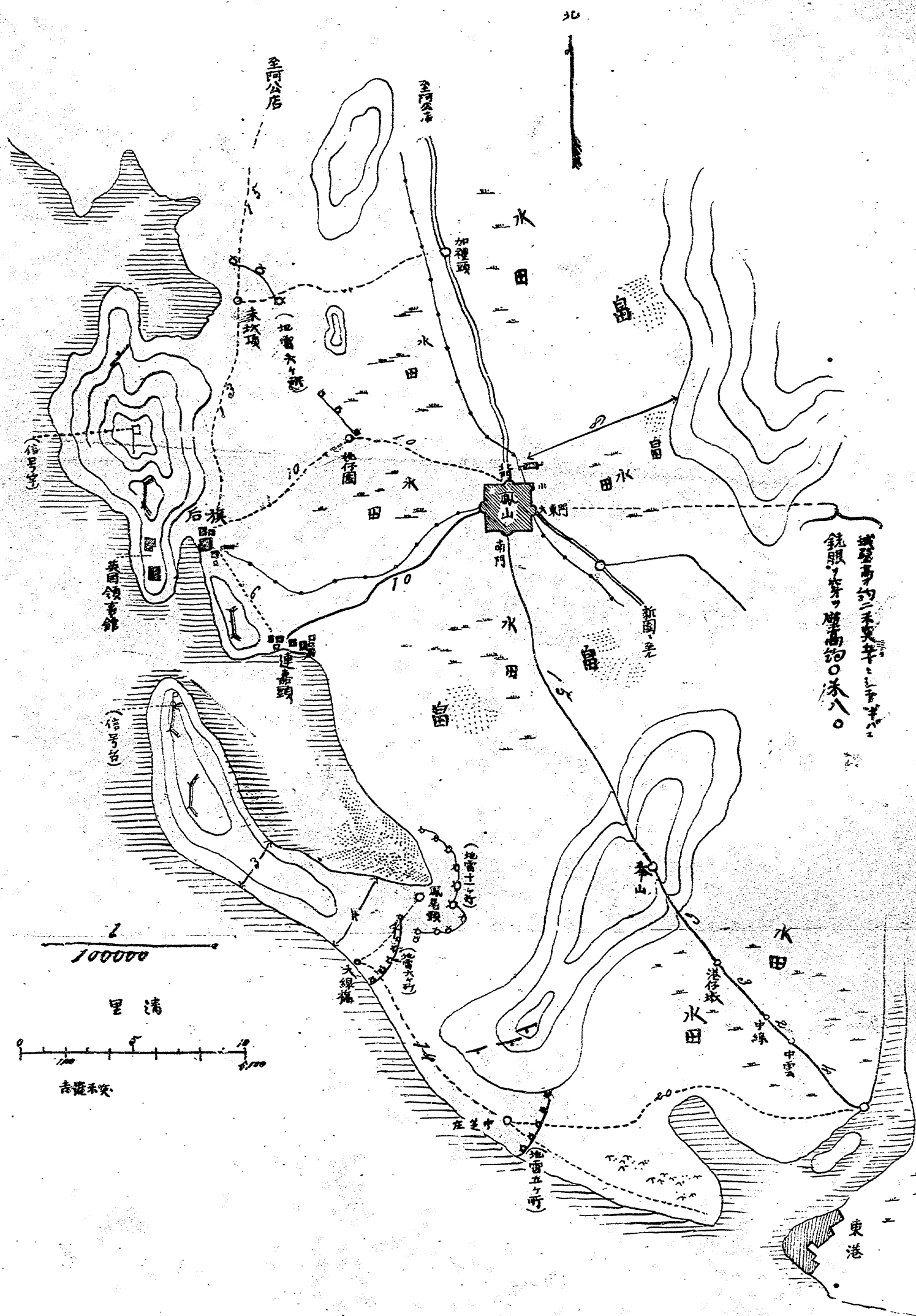
眼尋常
下髯ナシ上髯少シアリ但目立ダス
耳少シク大
頰骨隆起
頭髮半白
腰不屈
(言語緩ニシテ小音廣東)
語中ニ漢語ヲ混ズ

鳳山沿岸地雷位置之略圖 (本圖之出入處開示地圖)

備考

鳳山砂糖系由諸等之下砂糖系
長沙之展望ヲ害ス

至利比雷教之地圖ヲ示ス



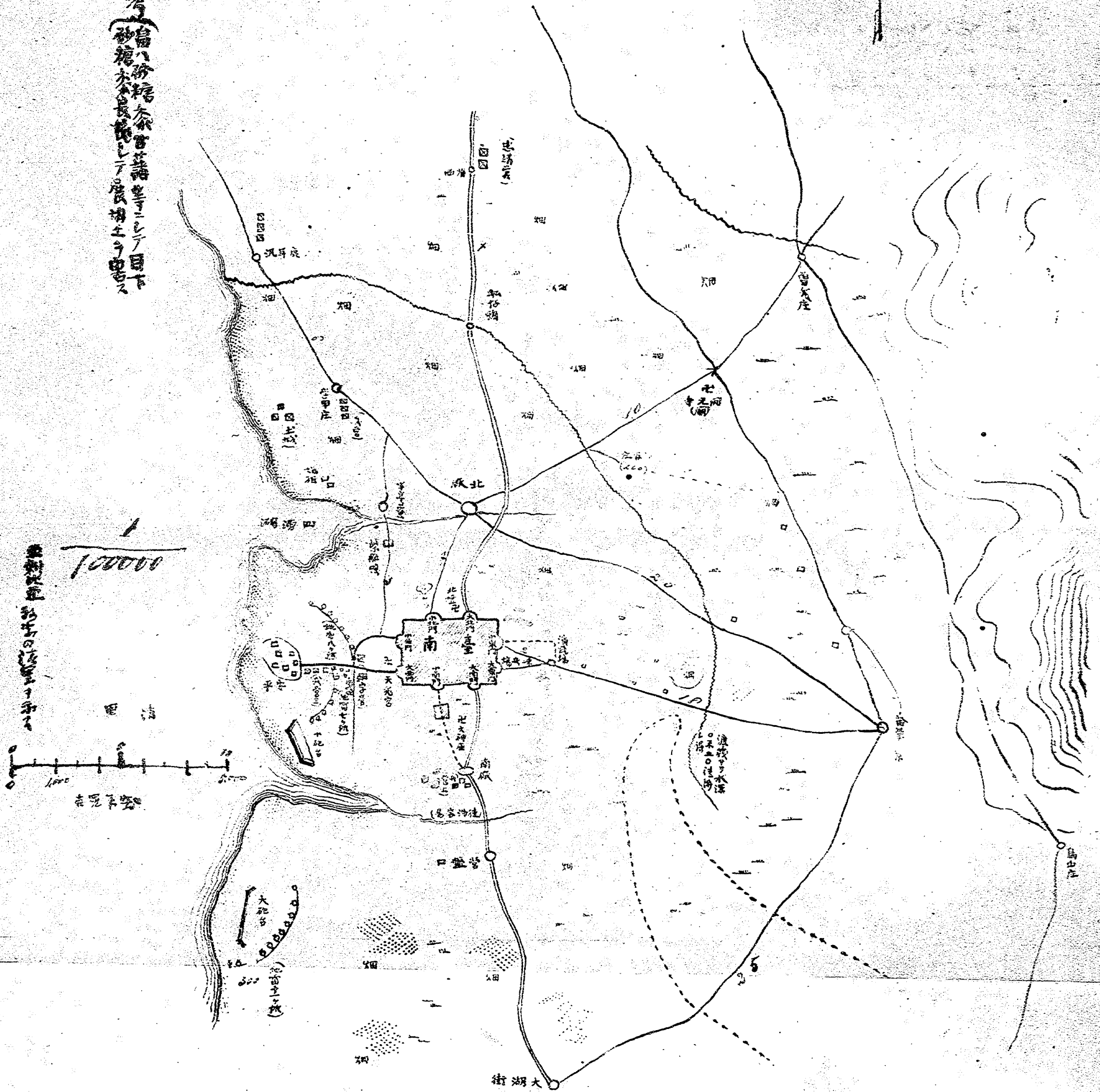
城壁高約二丈五尺、土質堅硬、
銃眼、穿、壁高約〇丈八。

安南平通地電位圖

(本圖ハ人出ノ間ニ十ノ一ノ比例トシテ作ル)

1085

備考
 自ハ砂糖ノ水質ニテ
 砂糖ノ水質ニテ
 砂糖ノ水質ニテ
 砂糖ノ水質ニテ



南部作戰間陸海軍連絡法

一、南北兩軍隊ハ其戰闘線海岸ニ接シタル部隊ヲテ艦隊ニ其右領シタル地点ヲ追次認識セシタル為メ大國旗ヲ高掲セシタルヲ要ス但シ戰闘線ノ一翼海岸ヲ距ル遠キ片ハ年候等ヲレテ特ニ著シキ地点ニ於テ之ヲ標示セシタルヲ要ス

二、第一師團及艦隊ハ互ニ筆記ノ通報ヲナスノ外第二師團戰闘線ノ左翼ヲ標示スル地点艦船ト相近近シタル場合ニアリテハ手旗信号ヲ以テ互ニ通信スルヲ要ス此信号ヲナシントスル前ニ先ツ赤旗(赤)ヲ高掲スルモノトス但シ打狗占領後第二師團全處駐軍間ハ打狗信号名ノ位置ヲ以テ信号所トス

三、天候其他巨浪遠隔レテ筆記ノ通報又ハ手旗信号

ヲナス能ハガル場合ニ在テハ左ノ信号ヲ以テ互ニ通報ス

明朝敵ヲ攻(砲)撃手セントス

大國旗ト大赤旗
ヲ連掲ス



四 支那船其他ノ船ヲ以テ交通ニ使用スル所ハ該船ニ國
旗ト赤白色旗(圖)ヲ掲ケシノ以テ他船ト區別ス

ルヲ要ス

五 打鼓山攻撃等ノ時ニ限リ左ノ旗号ヲ以テ第三項ニ等シキ
信号トス



南支通分四十五号

通報

一昨日艦隊司令官ヨリ英艦携り帶ノ書簡
ニ関スル略報ヲ得タリ之カ為メ余方前決心ニ變
更スルナシ

二混成第四旅團ハ艦隊ト協力上陸ヲ決行シ
敵ノ抵抗ヲ受ケシモ本朝迄約二大隊上陸セリ
敵ハ約三千アリト云フ其一部ハ南方及東南方ニ
退却スル一部ハ今猶ホ約七百未突ニ於テ我ト對
抗スルアリ

三今日モ引續キ上陸中數日來ノ強風波高ク
上陸動作甚ク困難ナリ

十月十一日

臺灣總督府

南進軍司令官子爵高橋 勲

常備艦隊司令官有地 三久 殿

此令文ハ乃木第二師團長へも通報可
請了

布衣元帥來報

十月十二日度



一派成旅團軍運送船ノ最度ハ十日西午ニ布衣元帥
沖。到着。船隊ハ前十時三十分ニ布衣元帥
不敵軍ヲ系始敵約三千ヲ海軍陸戦隊ハ二時
半陸軍歩多ハ三時上陸ヲ始メリ
敵ハ布衣元帥ヲ焼拂ヘリ
我戦死二敵ノ此傷ヲ未詳
十一日午後近衛ト連絡通リ我戦多ハ少敵者
ヲ龍形船ニ乗ルモノアリ

十二日中ニ上陸ヲ終リニ歩多ハ五大隊騎多ハ
各一中隊ヲ隊樂、糧食運列多誌ハ隊ノ一トナリ

鏡中 十月十三

本日中 軍隊ノ揚陸ニ大向終リ明日ヲ復
揚ノ揚陸ニ所ナル候キ

本日東京 在(布衣)嶺ノ方(一)所道ニ見テ

七隊隊ノ中隊ニ全支ニ休想中敵

(千人)隊ノ包圍ニ支トリ之ヲ援助スル大歩多

一中隊ニテ地ヲ送リ

中島市ニ於テ嶺ノ定期船 始メ德ニテ何等ノ

被害モ 東洋ニ至ルリト信部

準備 艦隊 準備 中

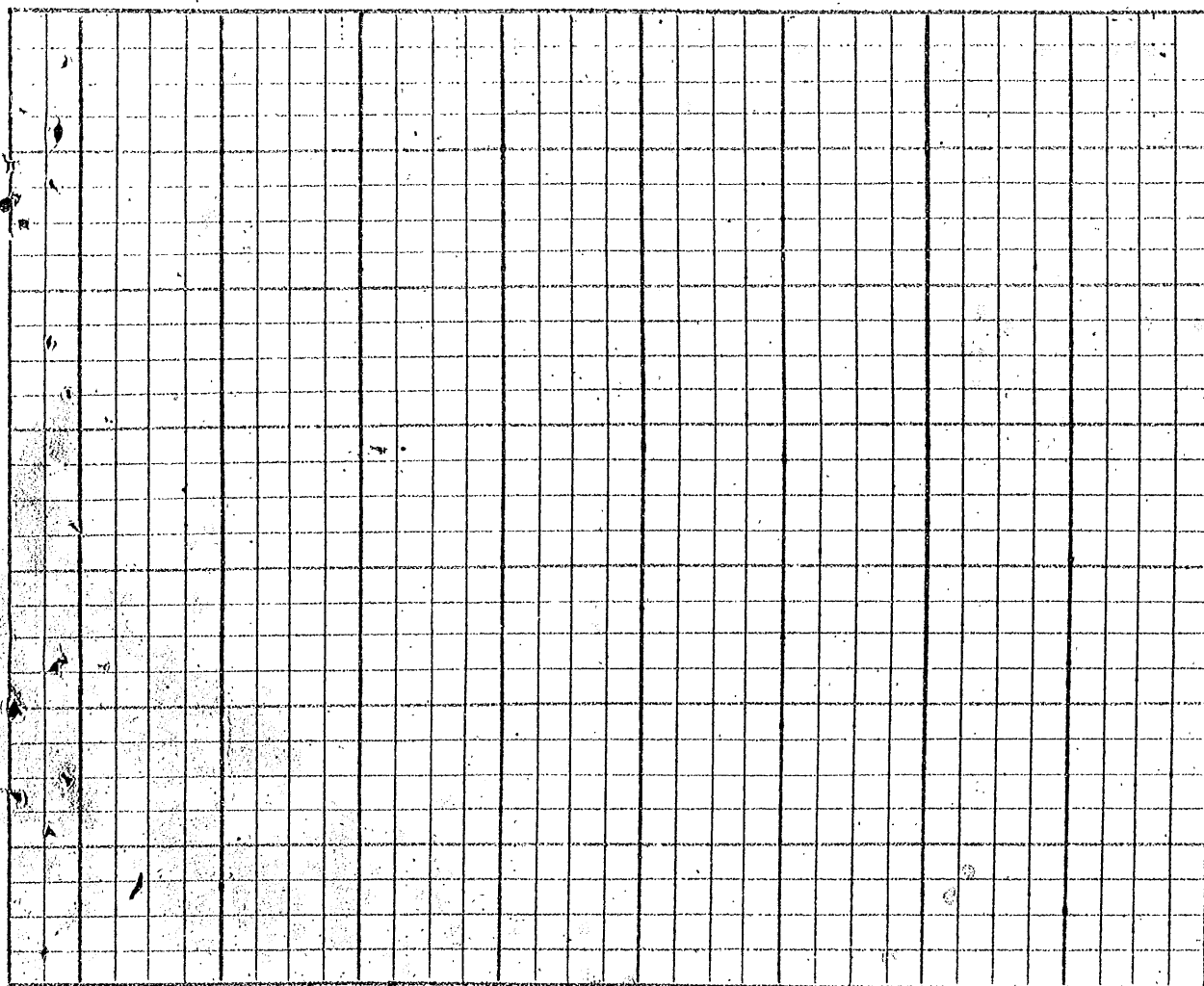
1092

發	着	受領者
月、日、午、時、分	月、日、午、時、分	殿
發簡地	發簡者	
於		

今日午前十一時頃、コテニ復隊大隊、其外悉皆東港附 近に到着セリ	十月廿三日	大久保第三師團参謀長	中略八重山艦々々	西京丸より通信	御聞、無事、當り、信、多、陸上、兵、隊、部、に、信、送、リ、タ 先由、左、記、に、信、送、リ、タ	右、件、報、告、ス	十月廿三日	上村、廣、海、軍、長、官	上村、廣、海、軍、長、官、に、信、送、リ、タ、其、外、悉、皆、東、港、附、近、に、着、隊、ス	報告、中
------------------------------------	-------	------------	----------	---------	---	-----------	-------	--------------	--	------

號

1093



司令長官

議長

参謀

秘書

通牒 十月五日午後五時 東京 東京

一 混成第四旅団より十月五日午後三時上陸 崩壊 約三百人敵
 ノ抵抗ヲ受ケルモ海軍ト協カニ之ヲ撃退セリ 敵ハ初メ五ヶ所
 入り込メ我上陸ニ先キ退却スルモノアリ 然レシ
 二 今日より濃霧に陸中上陸ハ困難ナリ
 三 近頃膠着ハ十月五日以前混成旅団より陸軍に港に於テ
 由ルニ其意ハ我軍に在リ
 四 旅団ハ十月五日以前敵より小ナリ敵軍集結ハ見レズ
 皆之ヲ撃退セリ

五 膠着ハ約二ハ十月五日午後五時上陸 崩壊 約三百人敵
 六 膠着ハ約二ハ十月五日午後五時上陸 崩壊 約三百人敵
 七 膠着ハ約二ハ十月五日午後五時上陸 崩壊 約三百人敵
 八 膠着ハ約二ハ十月五日午後五時上陸 崩壊 約三百人敵
 九 膠着ハ約二ハ十月五日午後五時上陸 崩壊 約三百人敵
 十 膠着ハ約二ハ十月五日午後五時上陸 崩壊 約三百人敵

ヨシタニニヤリ

六、可也、部ト十四、上機ノ機

七、揚子江ノ不自由ノ感ノ人ハ甚ク及、船弁ノ教
ナリ

八、布衣ノ機
九、冬ノ謀

上、村、部、機、後、冬、機

發 十月十一日午後六時〇分	着 月 日 午 時 分	受領者 常陸艦隊 上村 年保 長殿	發簡地 於揚陸地	發簡者 常陸艦隊 大久保 年保 長	蒙閣陸揚為物中明日更ニ船舶へ積込 為メ明日午頃右渡地ノ為メ不得止一中隊 ヲ戦闘隊ヲ残置於此ナレバ該中隊ノ三 丁第一衆多ノ土賊ヲ襲メ際不安心慮有 之故ニ付ニ相成ハ右渡地ノ為メ明日午頃 八重山艦ヲ揚陸地附近ニ残シ置ヤレ其 致成ハ及ハシ清求也
------------------	----------------	-------------------------	-------------	-------------------------	--

1096

號



昔年前十時半坂城備機車各隊

一今朝五時頃より坂水港泥波子頭ニ至ルニ方

各知ニ至ルニ手掲ルニ又同方向ニ稍盛ナル

視察ヲシテ少クモ止マレ

一昨日ハ富備隊より渡仔次方面ニ出シタル所候

ハ何モ得レコトナク海邊ニ至リテ船父ニ渡仔次

所候ヲ出シタリ

電報

十日午五時頃他里ニ電報

十時五十分頃坂城備機車各隊

一昨日前十時半坂城備機車各隊

志リ船機ヲ見ルニ又同方向ニ稍盛ナル

セモ城ハヲ屋ク所ニアルヲテ兵ヲ明扉ヲ
破壊シ又ハ梯ヲ用ヒテ城壁ヲ越テ進入シ
午後一時金クモ我城ヲ占領セリ
二、敵ハ兵ヲ失ハル土匪我兵ヲ害ムトテ子
アリシモノ我軍に傷ヲ受ケテ十名ノ敵ノ
死傷ハ洋カナラシムル多ク我軍方ニ上リ
セリ我軍は隊伍ヨリ水屋前派兵前進シ
多ク敵兵ヲ捕獲シハ斬殺セリ
三、今朝右側村隊ト前哨ヲ編制シ茹荑作戦
水屋前派兵セリ
四、我軍ハ人民ヲ多ク家ニセリ併シ積込
一兆候アリ

族令才五七〇年三化り部風多し
於今ハ底雷原用雷場ニ種ノ種素
ニ未氣見至升年ニ安ナクナリ
此ニ洋何ノ義ニ後ヲ歩ナクナリ
東ノ下ニ多ク

辛酉年十月十三日

荒木佐時新役部月
末弟指新隊主保長也



一 南す面ノ上陸となり中と我
 一 海門の航より出港
 一 海素の揚陸より兵と多の船長
 一 托り中と出航より答り
 一 左の海門
 一 十の千の
 一 年おの
 一 上村第伍の多海長殿

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1101

布告の命令

通報

一、台南右領日取、来北二、北三日頃、変更^{僅上}、豫定ナ

一、来十五日頃、第二師團、鳳山、右領、エバキ、依リ、其報ヲ接
キ、^{急進}、急進、命令ヲ出サハ、ナ
ラシ

一、十四日頃、布袋嘴、在下、加、其、以、近衛師團、前衛、ト、
間、電信、ヲ、通、ス、ニ、苦、

一、軍司令官、上陸後、其司令官、ニ、送達、ス、ヘ、テ、報告、通報、等
、布袋嘴、通信、部、ニ、向、テ、差、出、ス、ヘ、シ

右、伊、大、久、保、参、謀、長、ニ、通報、ス、ヘ、テ、台南、進、軍、等、
謀、長、ハ、ハ、代、章、備、艦、隊、等、謀、長、ハ、口、頭、ニ、依、リ、頼、セ、ラ、レ、タ

海軍

此、延、ナリ

十月十四日、打、狗、陣、ニ、於、テ

十月十号

今朝差出せし前衛、後八奉山あり
後、雨立、兵二大隊、少隊を従
列、津波河は石岸、4里、おろす、宿、美、路
し、お、り、ま、の、子、数、々、

三上中佐殿

オニ、保、固、之、陣、中

基
礎
運
輸
通
信
部